

令和3年度 授業改善推進プラン<1年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・教科として全体の目標値を11.3ポイント上回った。基礎・応用とも11ポイントを上回っている。
- ・領域別:「話すこと・聞くこと」の項目は、目標値を上回ったが、2.3ポイントと差は小さい。
- ・内容別:「話の内容を聞き取る」項目は、目標値を1.6ポイント下回った。
- ・観点別:3観点すべて目標値を上回った。

国語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none">・「話の内容を聞き取る」が目標値を下回った。話し手の目的に応じて話の内容を捉える力が、不足している。・「漢字の読み・書き」は目標値を上回っているが、「読む」こと、特に日常的にあまり使わない訓読みの理解が不十分だと考えられる。・「文法・語句に関する知識」は目標値を上回っているが敬語の理解、連用修飾語の理解が不十分だと考えられる。・「文学作品の内容の読み取り」は目標値を上回っているが、登場人物の心情を、描写を基に捉える力が不足していると考えられる。
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none">・目標値と比べると、「知識・技能」は13.9ポイント、「思考・判断・表現」は9.6ポイント「主体的に学習に取り組む態度」は12.2ポイント上回っている。「思考・判断・表現」のポイントがやや低いのは、話の内容を聞き取る問題と文学作品の内容を読み取る問題の理解が不十分であることと関わりがあると考えられる。また、作文の問題の、自分の立場を明確にする、理由を明確にする、文章の内容に沿う項目と関わりがあると考えられる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

- ・「文章を書く機会を増やす」:授業の内容に従って、自分の考えを書いたり、登場人物について読み取ったりして、文章を書くことになれさせる。その際、根拠を明確にし、主語述語修飾語の係り受けを意識して短い文で書くようにさせる。具体例や体験を入れる。
- ・「文章の読み取り方を身につける」:説明文では、段落の役割、文章の3段構成、段落の柱になる文を意識させる。文学作品では、時・場・人物・事件を読み取り、事件の流れや心情の変化を追うよう気をつけさせる。
- ・「話し方・聞き取り方を身に付ける」:音読は意味のまとまりで区切って読む。発表は、間を取り聞き手に話しかけるつもりで行う。発表を聞く際は、話の内容と話し方の両方に注意し、評価する。
- ・「漢字の読み書き」は、小学校の復習を日常的に確実に継続する。

授業改善推進プラン 教科ごとの改善プラン<2年国語科>

1 国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

昨年度の取り組みにおける成果と課題

【昨年度の取り組み】

- ・「漢字の読み書き」に関しては、きちんと正しい漢字を書かせ、書き間違い、読み間違いがないよう確認をしていく。漢字テストなども実施し、語彙力を高めていく。
- ・「書く力」をより伸ばしていくために、時間を区切って書くなど、制限を設け、取り組ませていく。
- ・「読む力」については、人物の心情の読み取りや場面の展開など、明確に項目を掲げ、作品をしっかりと読み取れるように授業を展開していく。説明文では、筆者の考え、事実などを読み取り理解を深めさせる。
- ・「話す・聞く」では発表を行ったり、他者の意見を参考にしながら自分の考えを書いたりする時間を作り、各個人での活動を増やしていく。

【成果と課題】

漢字については、小テストに意欲的に取り組む生徒が増えたが、漢字を書いて覚えるということにおいて、自身の学習方法が確立されていない生徒も多い。自分なりの定着方法を見つけられるようにしていく。書くことにおいては、授業中にこまめに発問し書くことで自身の考えを形成する力を身につけさせる。ワークシートや作文用紙に長文でまとめる際は、文のねじれや助詞の使い方に課題が見られるため推敲のポイントを示していくことで適切な文章が書けるようにしていく。発表や他者との意見交流は継続して行っていく。

2 国語科における調査結果の分析

内容別結果の分析	<p>(ポイントは目標値と比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を読む」は5.3ポイント上回っているのに対して、「漢字を書く」は1.5ポイント上回っている。 →漢字を読む力に対して、書く力の達成率が低いため、意識的に漢字を書く取組みを増やしていく。 ・「文法・語句に関する知識」が目標値を2.2ポイント下回っている。 →特に、単語や文節に関する正答率が低かった。文法学習の基礎固めが必要である。 ・「説明文・文学作品を読み取る」では目標値を9ポイント近く上回っている。 →全体の構成を捉えた上で、人物の細かな心情や筆者の主張を捉えられるようにしていく。 ・「新聞記事を書く」「作文」においても目標値を上回っているが、文章の書き方に課題も残るため、様々な課題を通して400字～600字程度の文章を書く取組みを継続的に実施していく。
観点別結果の分析	<p>(ポイントは目標値と比較)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語への関心・意欲・態度」は7.3ポイント上回っている。(昨年度-0.9) ・「話す・聞く能力」は7.8ポイント上回っている。(昨年度+0.1) ・「書く能力」は8.7ポイント上回っている。(昨年度-1.1) →5W1Hが欠けている、文のねじれなどの課題がある。推敲を重ねながら長い文章を書くことに慣れていくことが必要である。 ・「読む能力」は8.2ポイント上回っている。(昨年度-2.9) ・「言語についての知識・理解・技能」は2ポイント上回っている。(昨年度比-1.2) →漢字を書いて練習することや文法問題の反復練習が必要である。

3 調査結果に基づいた授業改善のポイント

「知識・技能」

文法に関する知識習得…ワークを活用し反復練習を繰り返していく。また、教科書に出てくる語句を品詞に分類し既習事項と組み合わせて振り返るなど、折に触れて文法の学習を行う。

漢字習得…新出と定着に分けてこまめに小テストを実施する。単純な反復練習にならないよう、音訓や熟語の知識と結び付けて練習させ、実際に使えるようにしていく。一律の方法ではなく、自分に合った学習方法を見つけ、意欲的に学習できるよう、取り組み方を工夫していく。

「思考・判断・表現」

「書くこと」…批評文や鑑賞文、学習のまとめなど様々な形式で長い文章を書くことを習慣化する。

その際、推敲の観点を示し自ら調整しながら明確で伝わりやすい文章が書けるよう指導していく。

また、「読むこと」と合わせて細かく発問し、ノートに自分の考えを書く機会を増やすことで自身の考えを形成し、表現する力を育む。

「読むこと」…文学作品では本文に書かれていることを根拠にするだけでなく、描写と描写から導き出せることを考えさせたり、登場人物の性格から心情を考えさせたりするなど様々な角度から読み取らせる。説明文においては構成や筆者の説明の仕方に着目させ、効果的な文章を書く力を育む。

「話すこと・聞くこと」…他者と意見を交流させるだけでなく、他者の意見を聞き、自身の意見の同異について

考え自身の考えに反映していけるように促す。スピーチやプレゼンテーションなど様々な形式で、まとめたことを発表する場を増やす。聞き取りテスト等を活用し、聞いたことの要点を掴むことに慣れていく。

・「主体的に学ぶ」

漢字練習に主体的に取り組めるよう、小テストの前後で自らの結果に合わせた自主的な予復習を促す。効果的な練習方法を示し、自身に合った学習方法が取り入れるようにしていく。ノートには板書だけでなく、重要語句の意味を書き込んだり、自身の気付きや他者の意見を書き込んだりできるようにし、自分なりのノートを作ることで理解が深まるよう指導していく。

令和3年度 授業改善推進プラン<3年国語>

国語科における昨年度の授業改善推進プランの検証

- ・目標値を11ポイント上回り、前年度+0.1ポイントであった。基礎問題も+11.8、前年度+0.3である。活用問題は前年比-0.8だが、目標値+8.3で高い正答率となっている。
- ・「言語についての知識・理解・技能」は目標値+11.1だが、特に漢字の書き、四字熟語などの継続学習が必要である。
- ・「話す・聞く能力」についても目標値+11.1だが、聞き取りテストによる聞き取り訓練や、TPOに応じた話し方等の機会を増やし、言語活動を充実することが必要である。
- ・「読む能力」については目標値を上回ってはいるが、説明的文章や文学作品の読み取りは他と比べて達成率が低いので、「書く学習」と並行させながら継続指導により、さらに力をつけさせたい。

国語科における調査結果の分析

内容別の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「漢字を読む」については、目標値、前年度を大きく上回り成果が見られた。 ・「漢字を書く」については、小学校の学習漢字の補充や訓読みの書き取りの正答率が課題である。 ・「文法・語句に関する事項」については、目標値+11.1だが、同音異義語の理解が不十分であり、敬語の使い方も復習が必要と思われる。 ・「説明文の内容を読み取る」については前年度を下回り、特に文章構成や展開を捉えたり、展開に即して要旨を捉える力の育成が必要であり、継続指導を行う。 ・「手紙を読み返し適切な表現に書き直す」については目標値-9.1、前年比-13.8である。メモをもとに手紙を書いたり、推敲する機会を増やしていく必要がある。
観点別の分析	<ul style="list-style-type: none"> ・「読む能力」な目標値+7.6だが前年度-3.0で、観点別正解率としては伸び率が低い。 ・「関心・意欲・態度」は目標値+9.7、前年度り0.3ポイント上回っており上昇している。 ・「書く能力」は目標値+11.6と正解率が高くなっているが、手紙の書き方などに課題がある。 ・「話す・聞く能力」は目標値+11.1、前年度+2.5となっているが、発表やスピーチの機会が減ってしまった。「話の内容を正確に聞きとる」「話し方の工夫を聞き取る」力の育成の練習が大切だと考えられる。 ・「言語について」は目標値+12.6、前年度+0.9であるが、小学校配当漢字の訓読みに課題があり、日常的にも訓読みの練習の不足を感じる。

調査結果に基づいた授業改善のポイント

・「知識・技能」

「漢字の読み・書きの能力」を定着させる。→新出漢字音訓の練習、特に訓読みの練習とノートの確認、家庭学習習慣の定着と復習により、定着をはかる。同時に、部首や熟語を意識させる。文法の知識を生かせるよう、文章を通して復習を行う。

・「思考・判断・表現」

「音読」「スピーチ」ができるよう、発表原稿の作成、推敲の機会をもち、言語活動を充実させる。授業や他人の発表を注意深く聞き、メモを取る習慣をつけさせる。

「文章を書く機会を増やす」→单元ごとに鑑賞文、感想文、批評文などを書いたり、人物の心情の読み取りを600字程度の原稿用紙に書く活動を継続し、常に「書く」ことを意識させる。格言、ことわざ、四字熟語、慣用句などを使うことも習慣化させる。「文章の読み方」を定着させるために説明文、文学作品それぞれの読み方や観点・用語を理解し、内容を的確にとらえる力を付けさせる。全体の構造をとらえると同時に一つ一つの言葉を丁寧に読み取らせる。

・「主体的に学ぶ」

辞書の活用、作品理解に必要な内容を、資料を活用してまとめるなどの活動を取り入れる。必要な情報を取捨選択し、それをもとに自分の考えを自分の言葉で文章にする学習活動を継続する。表現を豊かにするために、推敲力を高め、ことわざや慣用句、四字熟語などを引用し文章力を高める指導を行う。